

子どもと大人の共なる礼拝（収穫感謝日）

「人の心を見る神さま」

みなさん、おはようございます。今日、11月の第3日曜日は収穫感謝日であり、例年、私たちの教会では、子どもたちとの合同礼拝を行っています。目の前の聖餐台の上には、季節のくだものや野菜が置かれていますが、私たちが生きるために必要な命を与え、四季折々に豊かな実りを与えて下さる神さまへの感謝の思いを言い表す礼拝でありますように心から願います。また、約400年前、イギリスのピューリタンがメイフラワー号に乗ってオランダのライデンからアメリカ大陸に渡り、そこで先住民の友情を得て豊かな収穫を得ることができた原点を想起し、今の私たちも神さまから日々与えられている恵みを、隣人に分かち合う時としたいと思います。

さて、今日は子どもたちと共に旧約聖書の日毎の糧の聖書箇所であるサムエル記上の16章前半部分のみ言葉から、神さまのメッセージに耳を傾けたいと思います。紀元前11世紀末頃のイスラエルの国の最後の士師(預言者)であったサムエルが、幼い少年であったダビデの頭に油を注ぎ、第二代目の王として任命する様子が書かれています。この時のイスラエルの初代の王はサウル王という王さまで、背が高くハンサムな青年で、民からの人気を得て、30歳でイスラエル王国の初代の王となりました。普通の人よりも肩から上が抜き出ているので、勇ましい勇者として国民を代表する抜群のルックスでありました。けれども、そのサウル王も外国の民族との戦いをくりかえす中、神さまのご命令であるにもかかわらず、それに聞き従うことをせず、自分の考えや判断を第一として、主のみ心から心が離れていってしまいます。そこで神さまによって立てられた預言者であるサムエルが、サウル王に変わるイスラエルの第2代目の王となるべき人を選び、その人物に油を注ぐために、ベツレヘムの地へ遣わされるのであります。ちなみに来週日曜日から主のご降誕を待ち望むアドベントに入りますが、救い主であるイエス様が誕生した場所も、この同じユダヤのベツレヘムでありました。預言者サムエルがこのベツレヘムの地へ赴き、そこで出会った人物はエッサイという人でありました。このエッサイというのは、ベツレヘムの住民でユダ族に属しており、彼には7人の子どもたちがいました。サムエルが町に到着するや、町の長老たちが恐る恐る彼を出迎え、「穏やかな事のためにおでになったのでしょうか?」と聞きました。サムエルは、「平和なことです。私は神さまにいけにえを献げるために来ました。身を清めてから、いっしょについて来なさい。」と答えました。そして、サムエルはエッサイとその子どもたち7人にも、きよめの儀式を行い、その後、祝宴に彼らを招いたのであります。彼らがサムエルの所へ来た時、サムエルは7人息子の中の長男のエリアブをひと目見るなり、「この人こそ、神様がお選びになった人であるに違いない」と思いましたが、けれども、神さまは預言者サムエルに対して「サムエルよ、見た目の良さや背の高さで判断してはなりません。わたしの選び方はあなたの選び方とは違います。人は外見によって判断するが、わたしはその人の心と意思を見て判断する」(7節)とされました。

続く8節以降を見ますと、次は次男のアビナダブが呼ばれて、サムエルの前に進み出たものの、「主が選ばれたのはこの人ではない」とサムエルは言いました。続いて三男のシャンマが呼ばれたものの、彼についても同じ言葉が返ってきました。おなじ仕方でエッサイの息子たちが次々とサムエルの前に呼ばれたものの、「神さまは、これらの者たちをお選びにはならない」(10節)というのが、彼の決り文句でありました。

サムエルがエッサイに念を押して、「もうこの他に息子さんはいないのかね？」と聞きますと、父エッサイは「いいえ、まだ一番下の子が残っています。あの子は今、羊の番をしておりますが…」(11節)と答えました。おそらく、エッサイはその子がまだ幼さが残る少年で、大切なお客様であるサムエルの前に出すことを、ためらっていたように思います。ところが、このあと、思わぬ展開となります。サムエルは「人をやって、その子を連れて来なさい。その子がここに来るまで、私たちは食卓には着きません。」と言いました。エッサイはすぐさま、迎えをやり、その子をサムエルのもとへ連れてくると、少年は血色のよい紅顔の美少年で、きれいな目を輝かせていました。その時、天から主のみ声がこだまして、「立ってこれに油をそそげ。これがその人である」(12節)との、神さまの声が聞こえてきました。サムエルはためらうことなく、この少年ダビデに油を注ぎかけ、神の霊がダビデに降りました。少年ダビデはサウル王に変わる次の王として、神さまによって選出され、この油注がれた日から神さまの聖霊がその心に宿り、少年でありながら、偉大な力をその身に受けることとなります。

さて、本日のこの少年ダビデが預言者サムエルから油を注がれるというお話は、今のぼくたち、私たちにあって、どんなメッセージを伝えてくれているのでしょうか？このダビデの油注ぎの場面は、神さまが私たちの外見・外側ではなく、私たちの心の中(内面)に最も関心を持っておられるということを教えてくれています。初代の王であるサウル王は背たけや外見は魅力的で、人々の要望にこたえて、サムエルが彼に油を注ぎ、イスラエル王国の初代の王となりました。しかしながら、やがてサウル王は神さまの戒めに背くようになり、だんだんとその心が高ぶるようになり、神さまからもサムエルからも見離されてしまいました。

一方でサウルに変わる第2代目の王としてサムエルが神さまによって示され、油を注がれたダビデは、エッサイの息子たちの中で、父の家業を助ける羊飼いの少年でありました。8人兄弟の末っ子であり、まだ幼さが残る血色のよい少年でありました。つまり、上の兄弟たちと比べて、当時は大人の仲間には数えられない少年でありましたが、神さまは兄弟たち一人一人の心のうちを見ぬかれ、主のみ心にかなった人として、家畜の世話をしていた少年ダビデに心を留められたのであります。神さまは、心の美しさがその目に表れていたダビデを選び、彼を新たな王として任命されたのであります。

神さまは現在の私たちに対しても同じように、私たちの心の中にいつも関心を持っておられるお方です。そして、神さまはどんな時でも私たちの事を忘れずに覚えていて下さる愛なる神さまです。私たちが一人さびしく孤独であると感じる時でも、私たちのことをいつも見捨てず見離さず、見守っていて下さるお方なのです。神さまの霊と力によって巨人ゴリアテを倒した少年ダビデも、やがて王国を治める立派な王さまとなりますが、時として主のみ心から離れて、間違いや失敗もしてしまいます。けれども、ダビデはその都度、自分の罪や過ちを正直に神さまに告白し、心から反省して、神さまの願われる道に聴き従おうとしました。私たちも長い人生の道のりの中で、失敗をくり返し、時として道を踏みはずしてしまうこともあるかも知れませんが、神さまが喜ばれる道がどのような道であるのか？いつも聖書のみ言葉に耳を傾ける一人一人でありたいと思います。

イエス様のご降誕を待ち望むアドベントへと向かうこの新たな一週間も、主とともに歩んでゆきましょう。